

氏名 ()

流域：定義と抽出法

作業1：右の図1は、アナグリフ（左）と陰影図（右）であり、裏面の図2は、陰影図（左）と等高線図（右）である。いずれの図も、生駒山地西麓の同じ範囲を示している。図1、図2を用いて、以下の作業①～④を行い、下の問い（問1～2）に答えること。

- ①図1のアナグリフを赤青メガネで見て、図中の地点A、Bへと水が集まる範囲（流域）の境界線（流域界）を、黒鉛筆でアナグリフに記入する。
- ②アナグリフに記入した流域界を参考にして、地点A、Bの流域界を、陰影図に黒鉛筆で記入する。
- ③裏面の図2の陰影図を見て、地点Cの流域界を、陰影図に黒鉛筆で記入する。陰影図では、流域界が分からない場合は、図1のアナグリフを赤青メガネで見て、地点Cの流域界を、アナグリフに記入して、それを参考にして、陰影図に流域界を記入する。
- ④陰影図に記入した流域界を参考にして、地点A、B、Cの流域界を、等高線図に赤鉛筆で記入する。

問1：地点A、B、Cの流域の面積を目視で判断して、大きい順に、下に記す。

問2：地点A、B、Cを流れる水の量は、どちらの地点の方が多いか、その理由とともに、下に記述する。

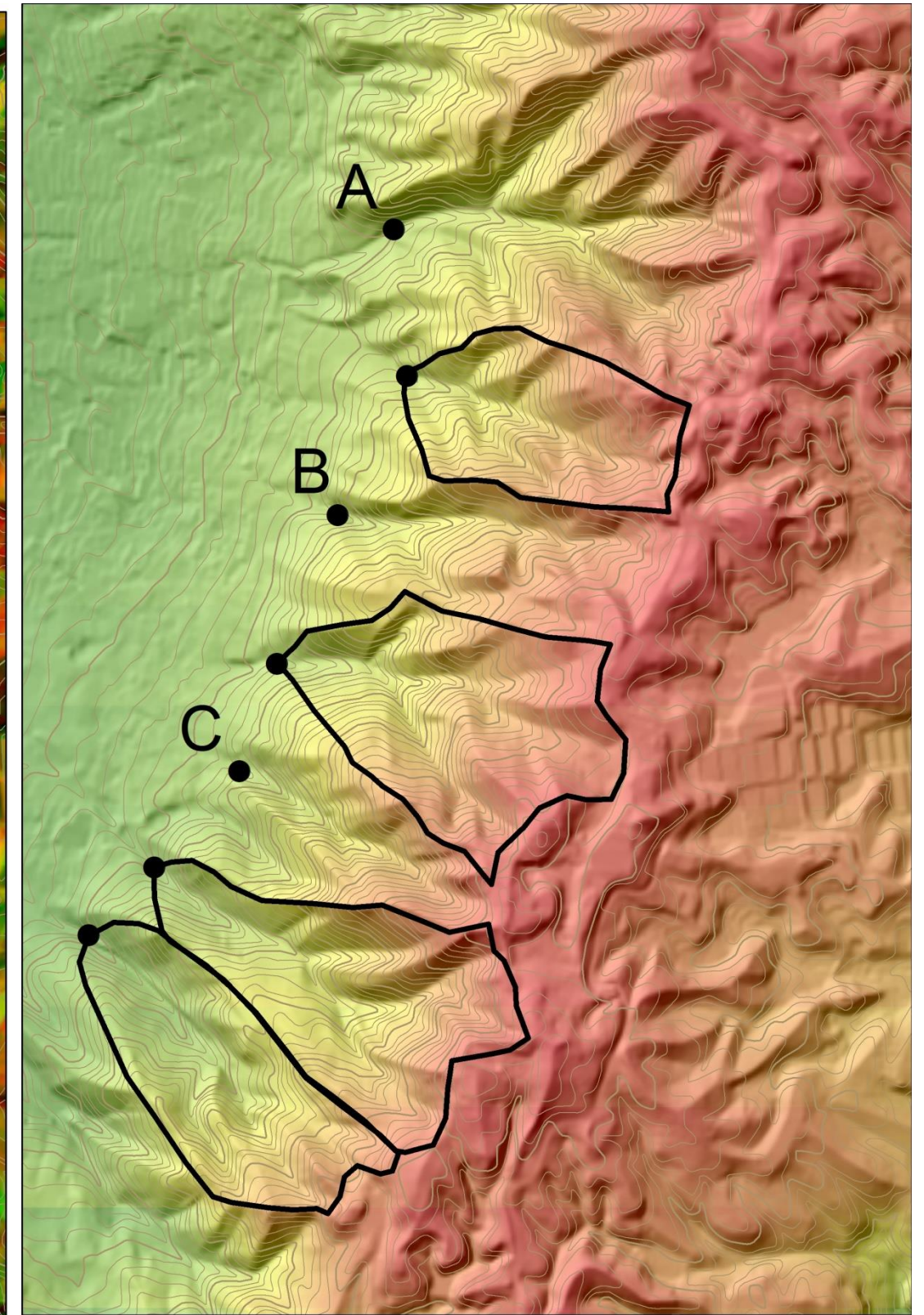
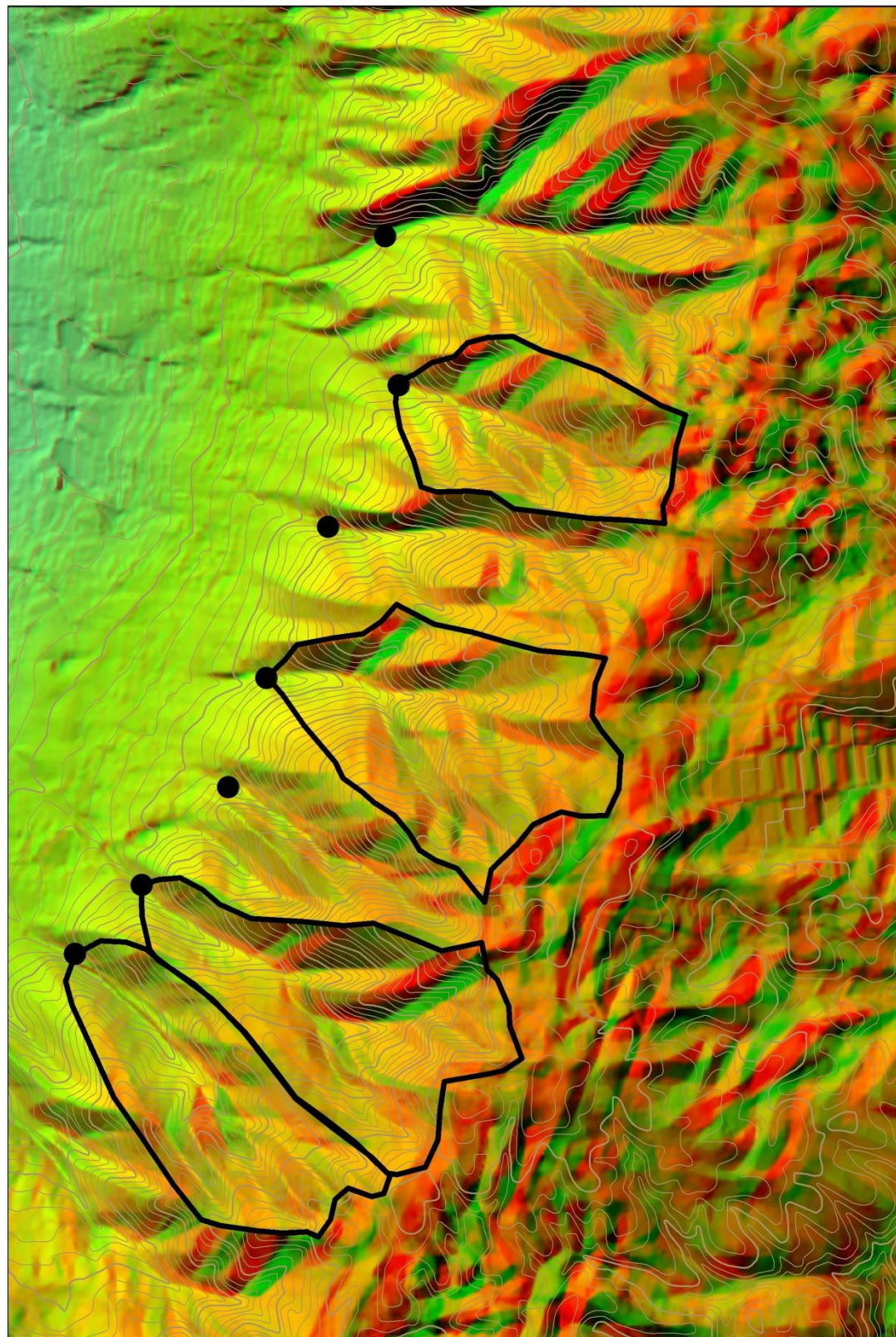


図1 アナグリフ（左）と陰影図（右）
図中の黒い太線が、黒丸に対する流域界。

作業 2 : 下の表は、次回以降に作業を行う 9 河川の流域面積と年平均流量を示したものであり、その下の表は、太田川、九頭竜川、大和川、黒部川のいずれかの年平均流量である。地理院地図を見て、太田川、九頭竜川、大和川、黒部川の年平均流量がどれであるかを考えて、下の表の空欄に、年平均流量を記入する。そして、表の下に、どうしてそう考えたのかを記述する。

地理院地図を見る手順

- ①PC または iPad でブラウザ (Google Chrome 以外) から「山田地理研究室」にある「地理学概論のページ」を開いて、「使用する資料」の 10/9 の作業 2 の紫のボタン「9 河川」をクリックすると、下の表の 9 河川の流域が表示される。このうちの、赤丸が河口に示されているのが、太田川、九頭竜川、大和川、黒部川である。
- ②開いた地理院地図で、各河川の流域の位置や大きさを見て、下の表の空欄に、年平均流量を記入して、表の下に、どうしてそう考えたのかを記述する。

河川名	流域面積 (km ²)	年平均流量 (m ³ /秒)
淀川	7,281	268
筑後川	2,295	95
阿武隈川	1,865	52
太田川	1,527	
九頭竜川	1,240	
大井川	1,160	76
大和川	962	
黒部川	637	
雲出川	304	14

年平均流量 (m ³ /秒)
108
79
37
24

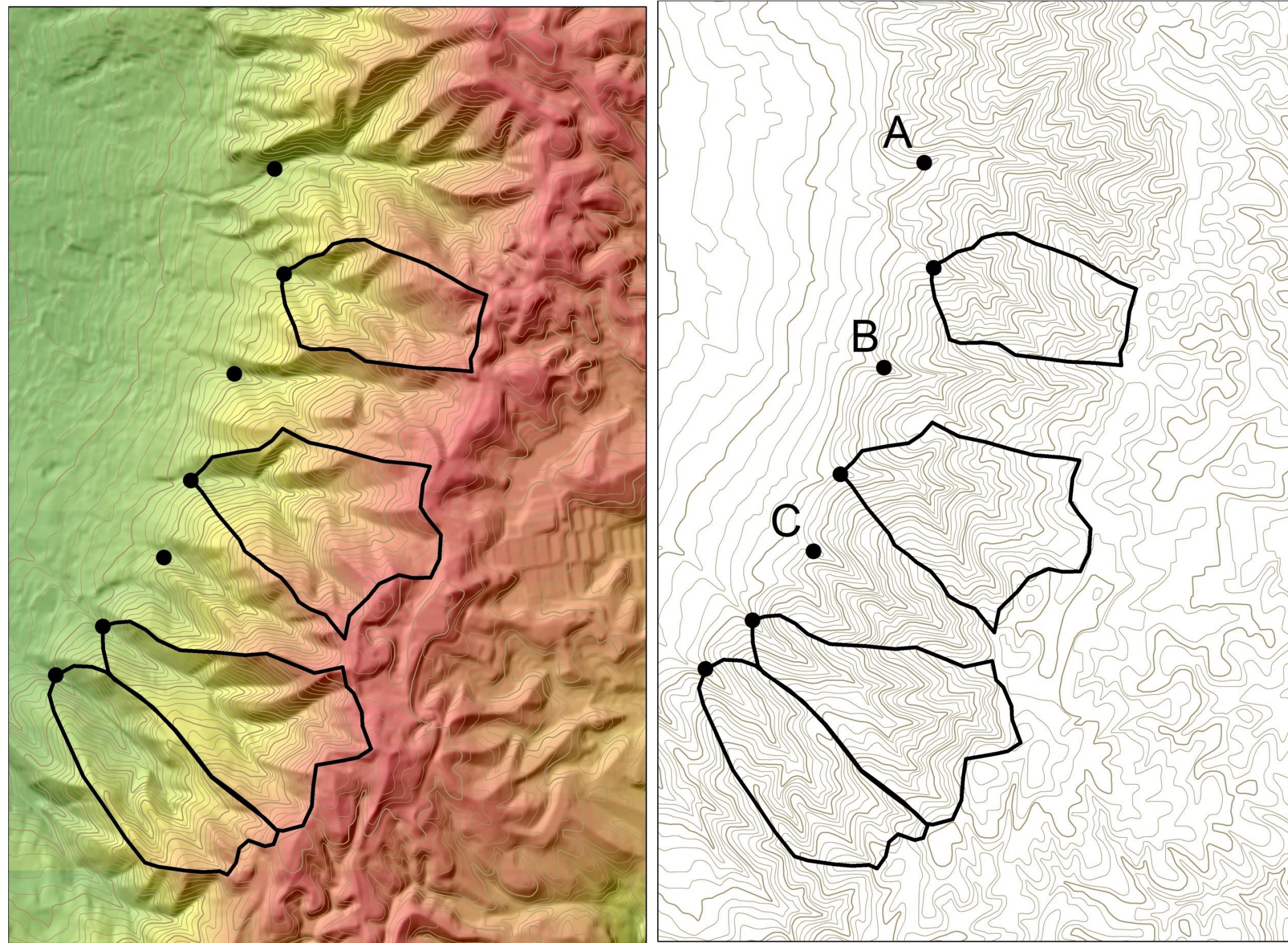


図 2 陰影図 (左) と等高線図 (右)

・どうして、そのように考えたのか？